

U.S. Indicators

発表日：2024年5月16日(木)

米国 4月CPIが概ね予想通り低下し利下げ期待強まる

～ただし、CPIコアの上昇モメンタムは依然強い～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 050-5474-7493)

消費者物価

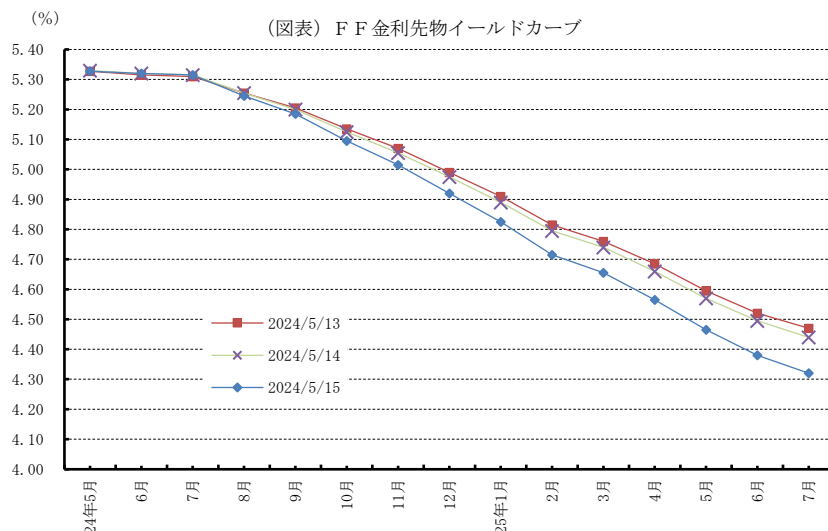
	総合		コア		エネルギー	食品	住宅	アパレル	運輸	医療	財 コア	サービ ス コア
	値	(%)	値	(%)	値	値	値	値	値	値	値	値
23/08	+0.512	(+3.7)	+0.230	(+4.3)	+4.4	+0.2	+0.3	+0.2	+2.0	+0.1	▲0.2	+0.4
23/09	+0.360	(+3.7)	+0.319	(+4.1)	+1.2	+0.2	+0.5	▲0.3	+0.3	+0.1	▲0.2	+0.5
23/10	+0.079	(+3.2)	+0.240	(+4.0)	▲2.1	+0.3	+0.3	+0.0	▲0.7	+0.2	▲0.0	+0.3
23/11	+0.160	(+3.1)	+0.308	(+4.0)	▲1.6	+0.2	+0.4	▲0.6	▲0.2	+0.5	▲0.2	+0.5
23/12	+0.233	(+3.4)	+0.275	(+3.9)	▲0.2	+0.2	+0.3	▲0.0	+0.1	+0.4	▲0.1	+0.4
24/01	+0.305	(+3.1)	+0.392	(+3.9)	▲0.9	+0.4	+0.6	▲0.7	▲0.6	+0.5	▲0.3	+0.7
24/02	+0.442	(+3.2)	+0.358	(+3.8)	+2.3	+0.0	+0.4	+0.6	+1.4	▲0.0	+0.1	+0.5
24/03	+0.378	(+3.5)	+0.359	(+3.8)	+1.1	+0.1	+0.4	+0.7	+0.8	+0.5	▲0.2	+0.5
24/04	+0.313	(+3.4)	+0.292	(+3.6)	+1.1	+0.0	+0.2	+1.2	+0.7	+0.4	▲0.1	+0.4

(注) 括弧内は前年同月比

24年4月の消費者物価（総合）は、前月比+0.313%（前月同+0.378%）と低下し、市場予想中央値+0.4%（筆者予想同+0.4%）を下回った。ガソリンなどエネルギーが前月比+1.1%（同+1.1%）と同率の伸びにとどまった一方、食品が前月比0.0%（前月同+0.1%）と低下したほか、エネルギー・食品を除く消費者物価（CPIコア）が同+0.292%（同+0.359%）と小幅低下し、市場予想中央値の同+0.3%（筆者予想同+0.3%）と一致した。

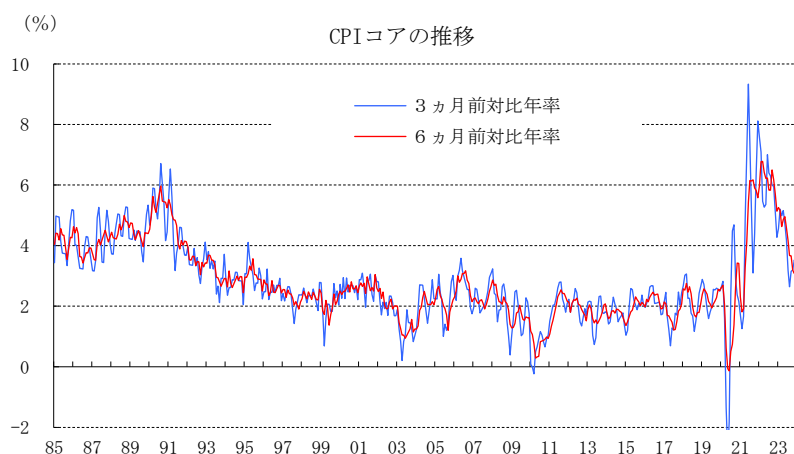
4月CPIコアが予想通り前月から低下したことを受け、FF先物が示す7月FOMCでの25bpの引き下げが32.5%（同26.4%）に上昇し、据え置きの可能性が65.1%（前日72.7%）に低下した。さらに、9月FOMCでは、25bpの引き下げが52.7%（同50.5%）に上昇、据え置きが24.7%（前日34.9%）に低下した。

FRBの利下げ期待の高まりを受け、2、10年国債利回りは低下、株価は上昇し最高値を更新した。ドルは主要通貨に対して弱含んだ（P5参照）。



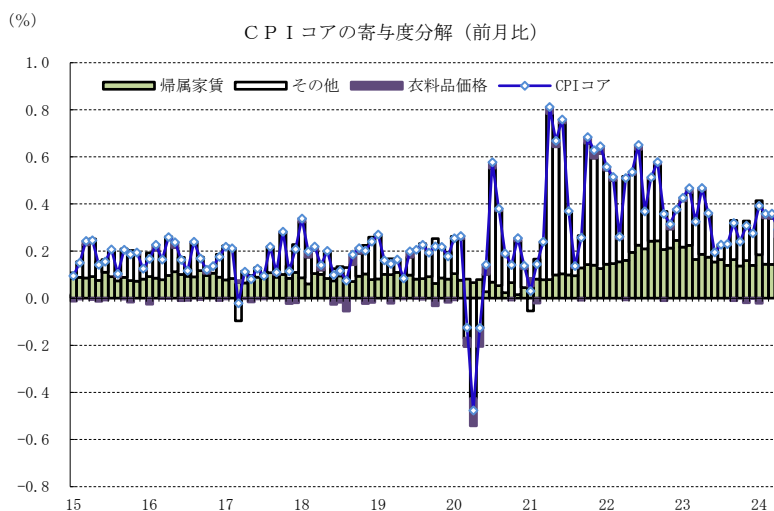
もっとも、CPIコアの上昇モメンタムをみると、3ヵ月前対比年率で+4.1%（前月+4.5%）と小幅低下したが、高い伸びにとどまっており、短期的なインフレ圧力は強いまま。また、6ヵ月前対比年率で+4.0%（前月+3.9%）と上昇しており、中期的なインフレ圧力は再び強まっており、現状ではインフレが2%の目標に向けて低下を続けるとFRBが確信できる状況に至っていない。

今後、労働市場の好調さが続くもとの5、6、7、8月のCPIコアが前月比+0.2%程度の伸びに低下すれば、FRBは2%に向けてのインフレ低下に確信を持ち、9月に利下げを実施するとみられる。



CPIコアでは、財コアが前月比▲0.1%（前月同▲0.2%）と下落したほか、サービスコアが前月比+0.4%（同+0.5%）と低下した。財コアでは、教材が上昇に転じたほか、衣料品、医療用品が上昇した。一方、その他財は下落に転じたうえ、家庭用耐久品・消耗品、新車、中古車が下落幅を拡大、自動車部品、情報機器が下落を続けた。アルコール飲料が前月と同率の伸びにとどまり、余暇商品は横ばいとなった。

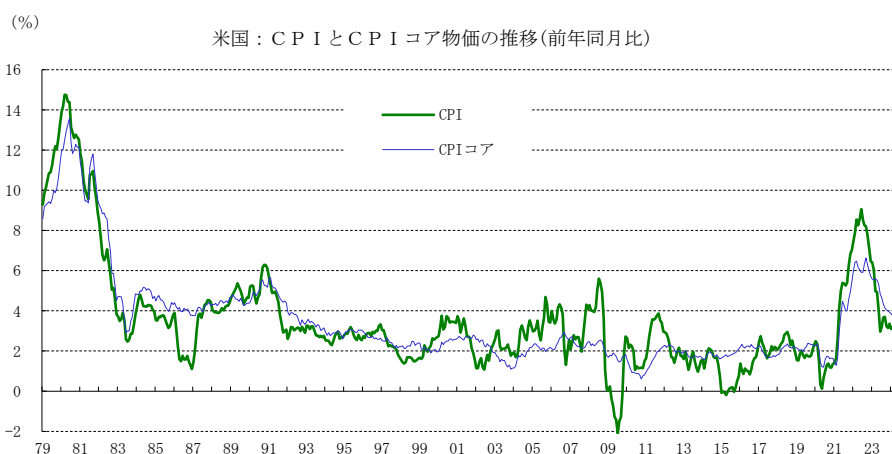
サービスコアでは、専門医療、上下水道・ゴミ収集サービス、余暇サービス、その他個人向けサービスが上昇した。賃料、帰属家賃は、前月+0.4%（同+0.4%）とともに高い伸びを続けた。一方、ホテルが下落に転じたほか、レンタカー、航空運賃が下落幅を拡大した。また、病院・関連サービス、医療保険、自動車メンテナンス・修理、自動車保険、インターネットサービスが低下した。



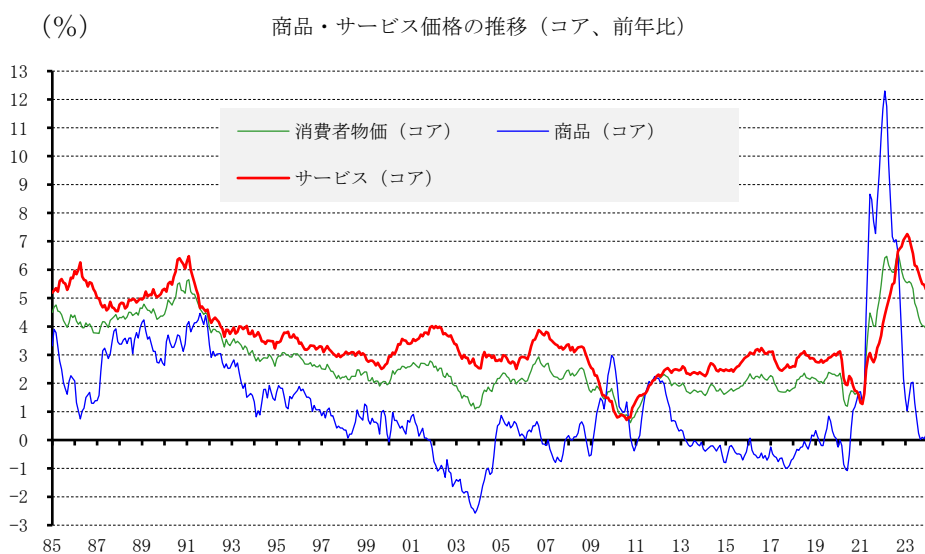
前年同月比の動きをみると、総合が+3.4%（前月+3.5%）と低下し、市場予想中央値と一致した（筆者予想+3.4%）。エネルギーが+2.6%（同+2.1%）と上昇し、食品が+2.2%（同+2.2%）と変わらずとなったものの、CPIコアが+3.6%（同+3.8%）と低下し市場予想中央値と一致した（筆者予想+3.6%）。財コアがサプライチェーンの改善、ドル高を背景に▲1.3%（前月▲0.7%）と下落幅を拡大したうえ、サービスコアが+5.3%（同+5.4%）と低下した。

財コアでは、衣料品が上昇したものの、家庭用耐久品・消耗品、新車、中古車、自動車部品、娯楽用品、教科書、情報機器が下落したほか、医薬品など医療用品等が低下した。

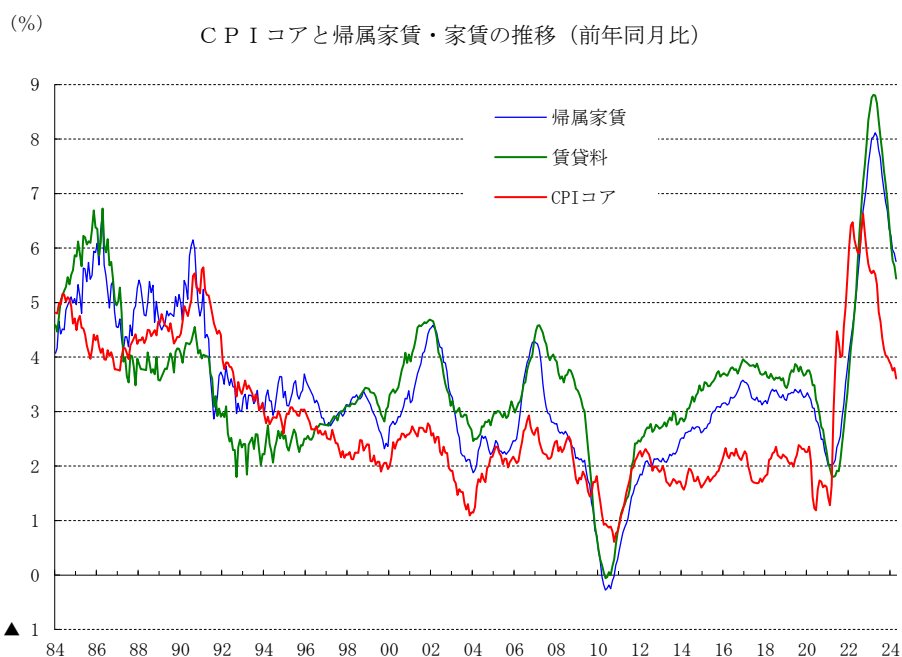
サービスコアでは、専門医療サービス、病院・関連サービス、自動車保険が上昇した。一方、ホテル、医療保険、レンタカー、航空運賃、携帯が下落したほか、賃貸料、帰属家賃、金融を含むその他個人サービスが高い伸びながら低下した。堅調な需要や人手不足による賃金上昇の影響を受け易い部門での上昇、住宅関連の高い上昇を背景に、サービスコアは前年比+5.3%と高い伸びを続けており、CPIコアの鈍い低下の主因となっている。



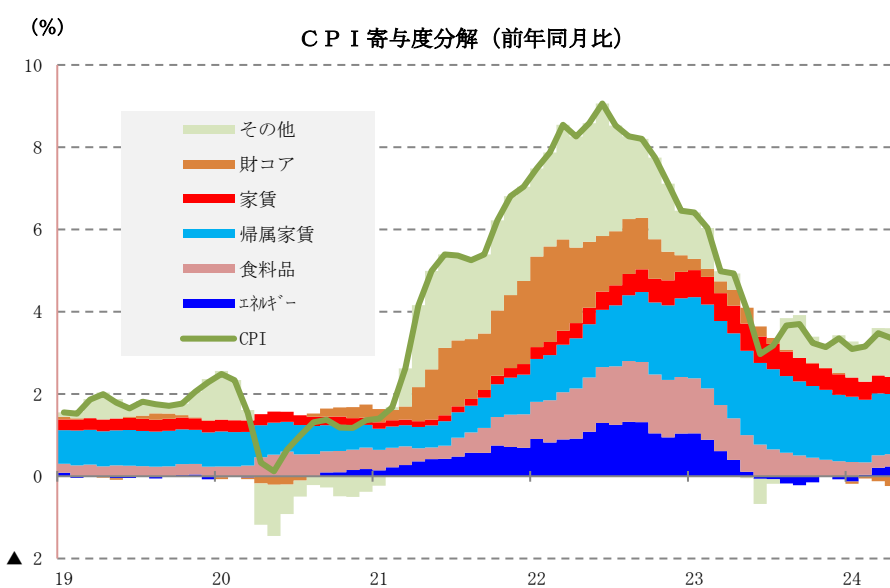
(出所) 米労働省



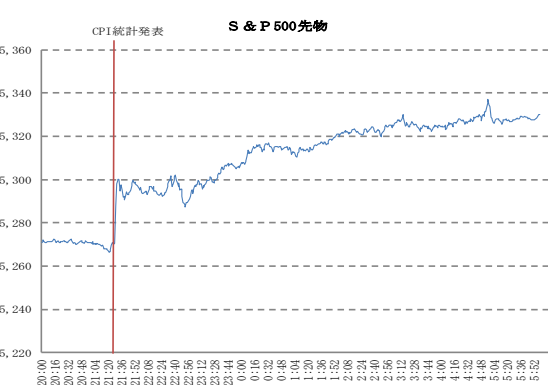
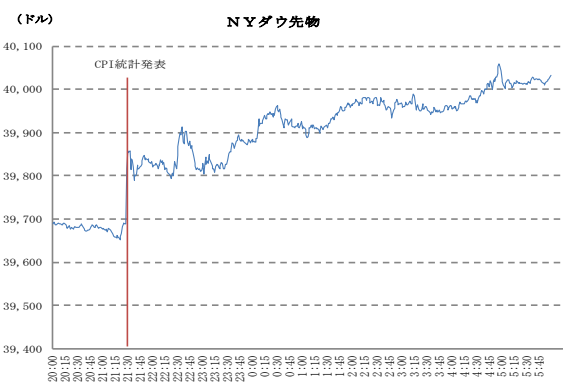
(出所) 米労働省



(出所) 米労働省



(出所) 米労働省



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。